

7/26 Sat 14:30

シアターキネマティカ



グラシエラ・オベヘロ・ポスティゴ
Graciela Ovejero Postigo

エファット・ラゾワナ・レヤ
Efet Razwana Reya

ノエル・ランゴネ
Noel Langone

プリヤンティ・アヌーシャ
Priyanthi Anusha

武谷大介
Daisuke Takeya

たくみちゃん
TAKUMICHAN

イエー・ツー・チー
Yeh Tzu-Chi

ポール・クイヤール
Paul Couillard

ヴィチュコーン・タンパイブーン
Vichukorn Tangpaiboon

ディンプル・B・シャー
Dimple B Shah

前田 譲
Yuzuru Maeda

ガブリエラ・ナターシャ・ガルシア・ゴンサレス
Gabriella Nataxa Garcia Gonzalez

ミラ・リー
Milla Lee

国内外から集まったアーティストたち 13 名による
10 分程度のパフォーマンスアートの連続公演。
アーティスト一人一人の豊かな個性が炸裂し、
身体表現の可能性を拡張します。
「パフォーマンスアートってなんだろう？」
とされているあなた、この貴重な機会にぜひ
会場で体感してください。

夜の乱反射Ⅲ パフォーマンス公演

主催：Responding Performance Art Initiative
日時：7月26日（土）14:30 start
会場：シアターキネマティカ
〒986-0822 宮城県石巻市中央一丁目 3-12

チケット / Ticket : 2,500yen

予約 / Reservation : daisuketakeya@gmail.com

チケット
予約フォーム



Responding Performance Art Initiative（レスポニング、通称
レスポ）とは？レスポニングは、社会のリアルに対して、十
人十色の感性で自由に応答する手段としてのパフォーマンスア
ートを実践し、アーティストと観客が同じ現場の空気感の中で体験
する新たなコミュニティであり、新言語の構築である。

non R7:
capital
letters

7.18. - 7.27. 2025
ISHINOMAKI, JAPAN

小レ
文ス
字ボ
のフ
物:
語



2025 . 7.26 sat 14:30 ~

夜の乱反射Ⅲ

PERFORMANCE ART EVENT
DIFFUSE REFLECTIONS OF THE NIGHT

シアターキネマティカ 宮城県石巻市中央1-3-12



グラシエラ・オベヘロ・ポスティゴ（アブヤ・ヤラ：AR/US）は、インターナショナルトランスディシプリナリーパフォーマンスアーティスト兼キュレーター。カリフォルニア大学サンディエゴ校、トゥクマン国立大学にてファインアート修士号およびビジュアルアート学士取得、ダンスインストラクター。米国移住前は、ソロダンサー、フリーの振付家、講師として活躍。1980年代半ばよりアルゼンチンのグループクロニカでパフォーマンスアートを探求。1983年より南米、北米、アジア、ヨーロッパなど22カ国において継続的に作品を発表。2022年のDocumenta 15では、タイを拠点とするWomanifesto Collectiveによる展示「ASIAN ART ARCHIVE」の一部として作品が紹介された。直近ではケベック市のLeLieuで開催されたRiAP 2024に参加。

エファット・ラゾワナ・レヤ は、バングラデシュ・ダッカを拠点に活動するマルチディシプリナリーアーティスト。絵画、インスタレーション、パフォーマンスを通して、感情、記憶、自然を融合させた作品を制作。直感と存在に根ざし、アイデンティティと変容を探求する活動を行う。レヤの作品は、Asian Art BIENNIAL、Chobi Mela、その他国内外のプラットフォームで発表され、その詩的で没入感のあるクオリティが評価されている。

ノエル・ランゴーネ は、1980年ペイサンドゥ生まれで現在、ウルグアイのモンテビデオ在住。造形芸術と視覚芸術を専攻。様々な芸術言語で作品を制作。展覧会、アート・サイクル、フェスティバル、レジデンスに参加。公立学校の芸術知識分野の教師として、また共和国大学の写真画像技術学部 of 教師としても働く。自身の実践を調査し、絡み合わせ、強化することが可能なプロジェクトに参加している。

ブリアンティ・アヌーシャ は、スリランカの2つの主要大学で美術学士と文学士を取得し、2009年からスリランカ内外の展覧会に定期的に参加。絵画から徐々にインスタレーションやパフォーマンス・アートに移行し、その作品は、男性的視点から見た美が女性にはどのように知覚されるのか、女性として経験したジェンダーに関連する諸問題に焦点を当てる。2001年より美術教師を務め、2011年より再開。Theertha International Artists Collectiveのメンバーアーティストであり、Mullegama Art Center、TheerthaのWoman's Artist Colloquium Program、Fire Flies Women Artistsに積極的に参加。

武谷大介 は、石巻市を拠点に活動する学際的アーティスト。スクールオブビジュアルアーツ（NYC）学士課程修了、ニューヨークアカデミーオブアート（NYC）修士課程修了。絵画、パフォーマンスアートなどの多彩な表現で、現代社会の妥当性を検証し、その隠された二面性を作品として表現する。トロント現代美術館、SVAギャラリー（NYC）、ワグナーカレッジギャラリー（NYC）、京都芸術センター、福島ビエンナーレ、キャノン写真新世紀展、山形ビエンナーレ、国際交流基金トロント日本文化センター、在日カナダ大使館高円宮記念ギャラリーなど、個展、グループ展多数。遠足プロジェクト共同代表、レスポ代表、DAIS石巻立ち上げメンバー。

たくみちゃん は、1988年生まれ、東京在住。一つのが複数の人にどう見えるか、その違いを源泉として上演を生成する。その際に独自のインプロヴィゼーション理論を構築している。コンテンポラリーダンス、パフォーマンスアート、演劇等、領域横断的に作品を発表している。近年は中国西安 [2025 GUYU ACTION] や宮城県石巻市 [R6: Releasing and Healing 開放すること／癒すこと] などのパフォーマンスアートプロジェクトに参加。代表作に《一(dash)#2 Rosetta Stone》Tokyo Arts and Space などがある。

イエー・ツー・チー（葉子啓） は台湾を拠点に活動するパフォーマンスアーティスト兼オーガナイザー。英文学のバックグラウンドを持ち、編集者、英語講師、フリーランスのライター／翻訳者を経て、2002年にパフォーマンスアートに転向した。これまでに20カ国以上でパフォーマンスやその記録を発表。2003年にArTrend Performance Group（阿川行為群）を設立、国内外でパフォーマンスアートイベント／フェスティバルを開催し、6冊のカタログをこれまでに出版。2020年台湾ビエンナーレ「Sub Zoology（禽獣不如）」参加。2つの作品Hair Tie（結髪）とHuman Egg vs Animal Egg（人卵対動物卵）がマカオ美術館に収蔵されている。

ポール・クイヤー は、カナダのトロントを拠点とするクィア・パフォーマンスアーティスト、キュレーター、学者。ポールのソロパフォーマンス作品は、私たちの独自性と、より大きな全体性における個としての繋がりを探求している。彼の作品は、感覚、経験、知識、そして精神を共有する器としての私たちの身体を使用した応答的でデュレーションなパフォーマンスを通して、個人的および集団的なトラウマに対処する。彼はトロントの7a*11d国際パフォーマンスアートフェスティバルの創設共同キュレーターであり、1997年以来14のフェスティバルに加え、数多くのレジデンス、交換プロジェクト、パフォーマンスシリーズ、アーティストトークを開催。

ヴィチュコーン・タンパイブーン はタイ出身のパフォーマンス・アーティストで、2018年よりASIATOPIA国際パフォーマンス・アート・フェスティバルのアーティストック・ディレクターを務めている。1999年にパフォーマンス・アートワークを始め、タイ国内のみならず、シンガポール、ラオス、クロアチア、中国、台湾、ミャンマー、香港、日本、スウェーデン、フランス、インド、インドネシアなど、国際的なパフォーマンス・アート・フェスティバルに定期的に出展している。彼の作品はしばしば、コミュニティや公共空間に関わる社会的、環境的、政治的な問題に関連している。

ミラ・リー は、インドネシア系中国人と台湾先住民の血を引く台湾出身のアーティスト。パフォーマンスアートを中心に、インスタレーションアートやビデオ制作も手がける。彼女の作品は、人間性、潜在意識、環境生態系の間の複雑な関係を深く探求し、エコフェミニズムの視点を反映すること多い。パフォーマンスを通して、現場や潜在意識と対話しながら観客との間に変容的な体験を生み出しており、記憶を解放し、新たな気づきを培うことを目指している。彼女のアートは社会規範に挑戦し、スピリチュアルな洞察を提供し、深い内省を促す。

前田穰 は、2009年LaSalle Collage of the Arts, Singaporeの音楽／作曲科を卒業。2010年よりゼンタイアートプロジェクトとしてゼンタイをテーマにしたパフォーマンスアートを行う。また、ゼンタイアートフェスティバルを主催し、ゼンタイスーツによる表現の可能性を追求。2025年より青森市浅虫でアートレジデンスを主催。

ガブリエラ・ナターシャ・ガルシア・ゴンサレス はメキシコシティ生まれ。2024年1月より東京在住。版画とパフォーマンスを中心に活動。メキシコのグアナフアト大学美術学部卒業。ビデオアーティスト、アニメーターとして活動し、数々の短編映画祭で作品を発表。現在、埼玉のアーティストグループCAF.N（Contemporary Art Festival Nebula）のメンバー。2024年、福島と石巻で開催された「R6: Releasing and Healing 開放すること／癒すこと」に参加。2025年、ドイツ、東京、千葉、アグアスカリエンテスでの展覧会に参加し、グラフィックドローイングと身体表現の交差点を探求している。

ディンブル・B・シャー は、インド・バンガロール出身、MS大学バローダ校卒業、マルチディシプリナリーアーティスト。Royal Overseas International Residency (2019年英国)、Villa Waldberta International Residence (2017年ドイツ)、Glasgow Print Studio (2006年英国)などの海外レジデンスに参加。インド国内外での受賞に、インド文化庁助成(2014年project 560)、プリンスクラウドスグラント(2013年)、第7回版画ビエンナーレ金賞(2009年ヴェルサイユ)、インド政府賞(2008年)、英連邦芸術工芸賞(2005年英国)、アルナフズ賞(2004年)、インド政府人材開発ジュニアフェロー(2000-2年)、ミレニアムイヤー賞(2000年)などがある。英国とインドで個展を開催し、国際ビエンナーレや芸術祭に多数出展。作品はアイオワ大学スタンレー美術館に収蔵されている。